

1. 「逆さ」物の実例

「逆さ・ねじれ」そんなものは数多ありますが、最近知った次の二つの事象との絡みを取り上げます。歴史上の人物に係るものです。

(1) 「逆さ般若心経」

その1；(宗) 出羽三山神社が2021(令和3)年は丑年御縁年として大々的なイベントを展開しています。図-1aは、羽黒山中興の祖天宥別当が書いた「逆さ般若心経」です。分かり易く表示すると図-1bのとおりです。図-1a左では分かり難いが、2021(R3)年10月14日(木)羽黒町「いでは文化記念館」学芸員から確認しています。意図は、魔除け・悪魔祓いのために普通とは逆に書いたという説明をしていました。蛇足だが、デジタル現代社会においては、縦書きと横書きの混在が多用されています。果たして敢えて「逆さ」と言えるだろうか。



図-1a

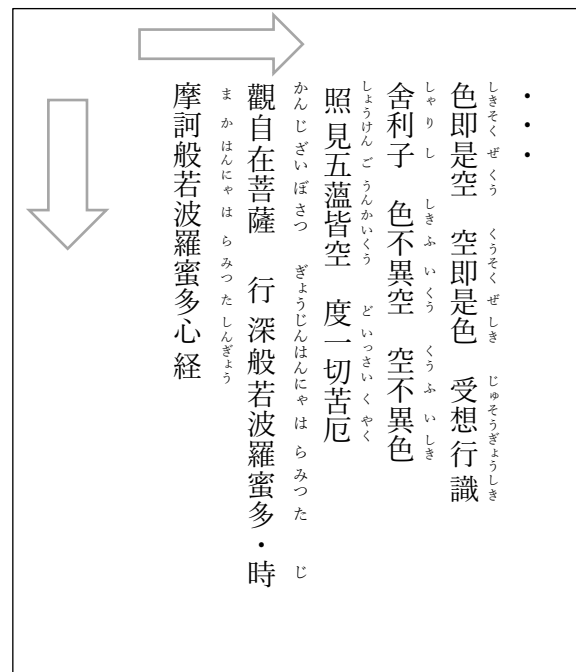


図-1b

その2；①ケース(図-2a) = 東洋風の縦書きは、[イ]パターンのとおり、文字は①上から下へ、列(行)は②右から左へ流れます。これの『逆さ』というのであれば、[ロ]パターンのように文字は①下から上へ、列(行)は②左から右へ流れるような書き方になります。

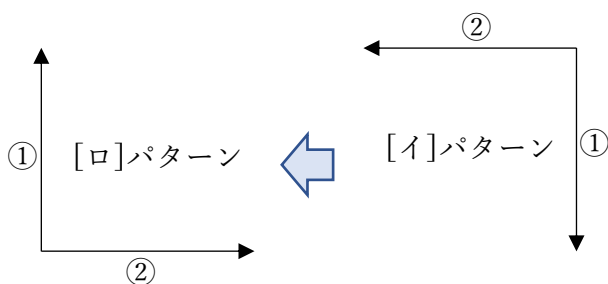


図-2a

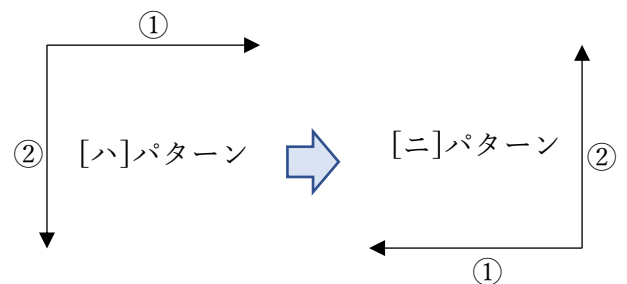
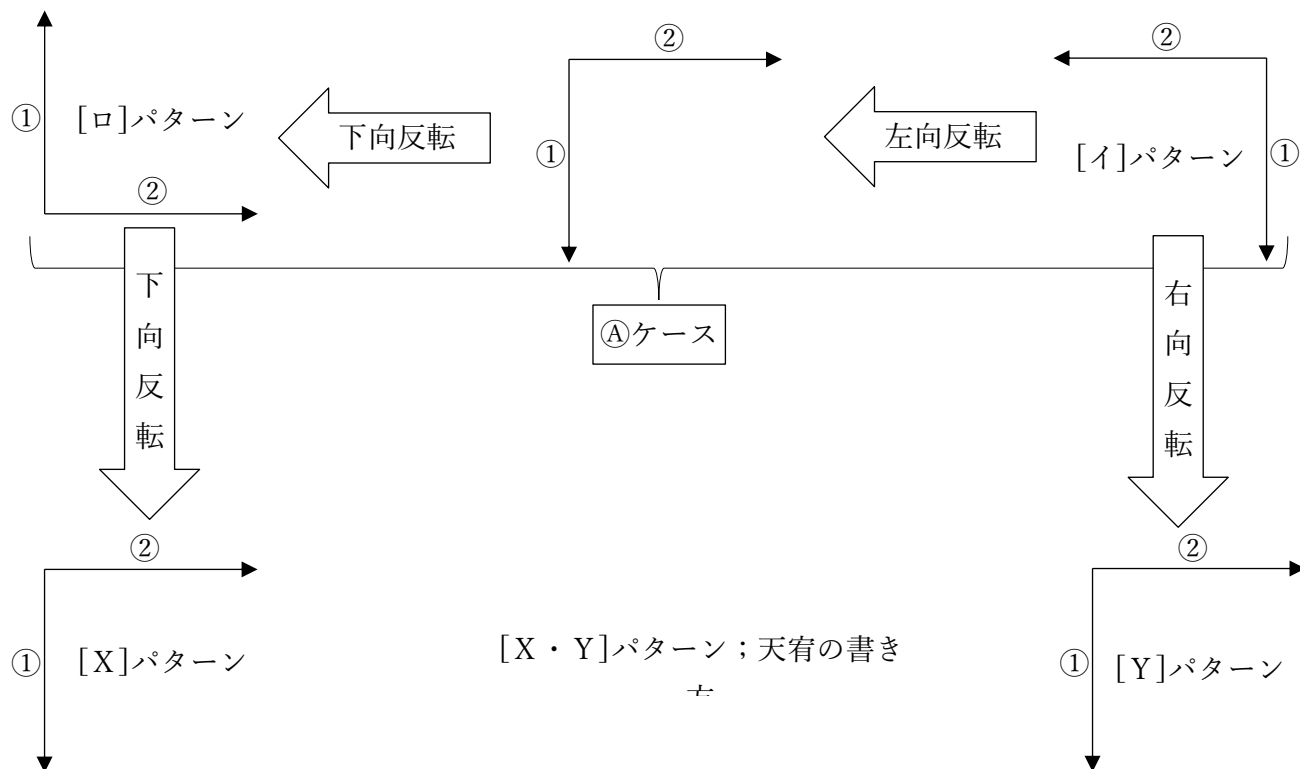


図-2b

⑧ケース（図－2 b）＝西洋風の横書きは、[ハ]パターンのとおり、文字は①左から右につなげ、②行は上から下へ流れます。これの『逆さ』というのであれば、[ニ]パターンのように文字は①右から左へ、列（行）は②下から上へ流れるような書き方になります。

その3；図－3参照。天宥別当が書いたとされる「逆さ般若心経」は、いわば④と⑧の合わせ技で文字は上から下へ、行（列）は左から右へ流れるように書いたものです。日本語の縦書きにおいて、真の『逆さ』というのであれば、前記④ケース（図－2 a）のことだと思います。



図－3

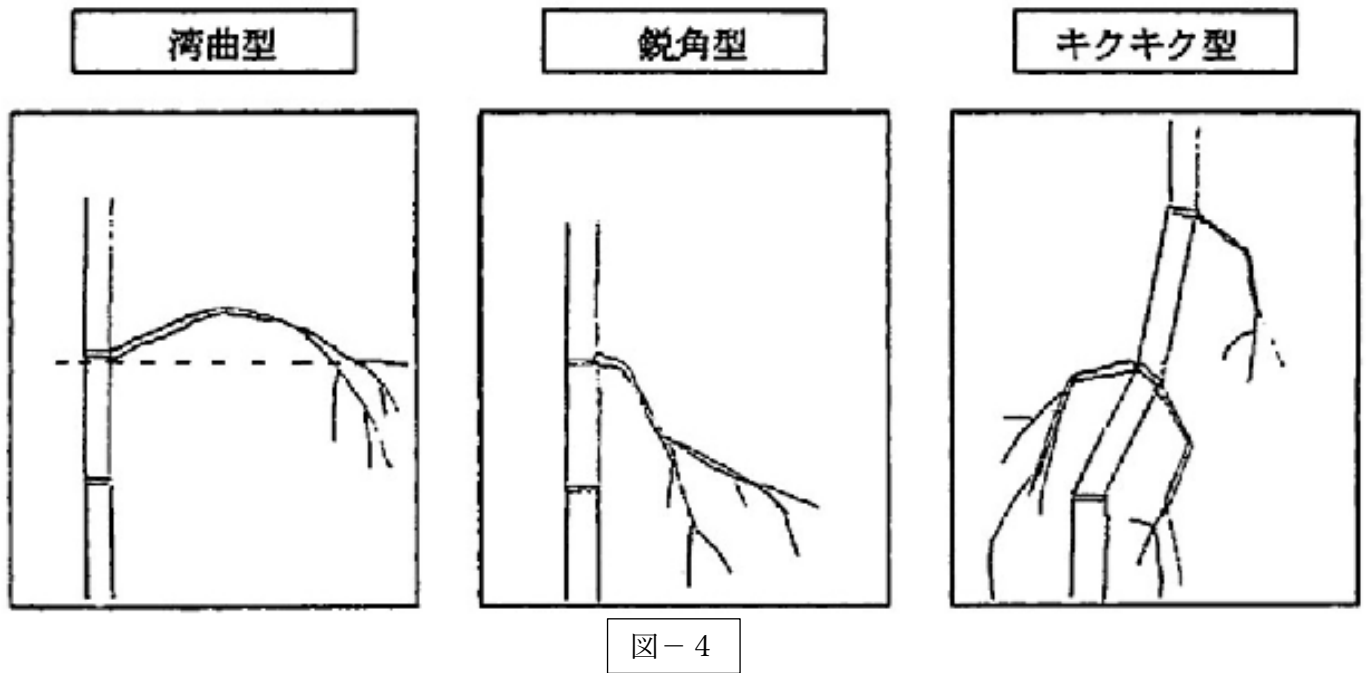
(2)「逆さ竹」

逆さ竹のことについて佐々木幸男さんから聞き初めて知りました、そこで村山民俗学会員市村幸夫さんから頂戴した資料の一部を拝借し、私の整理を加えました。

□1；幕末の元治元年と慶應元年（1864～65）に発行された『最上山形名所名産番附』に「専称寺サカサ竹」が載っている。

□2；越後に流された浄土真宗開祖の親鸞が起こした奇譚として動植物の珍種を親鸞の七不思議（越後の七不思議）――1 逆さ竹、2 焼鮎、3 八房の梅、4 数珠掛桜、5 三度栗、6 繋ぎ榎、7 片葉の芦――として伝わっており、その中に1 逆さ竹があります。・・・逆さ竹の不思議は「聖人がある時、竹の杖を地面に立てたところ、枯れ竹から根が生じて竹林となり、竹の枝は不思議なことに、下向きに延びた。」

その親鸞ゆかりの現地の逆さ竹とは如何に？ 新潟市のHPにも掲載されています。その話題の竹について、新潟市教育委員会は2005年3月「天然記念物『鳥屋野逆ダケの藪』保存管理報告書」を作成していますが、その中に「・・・しかし、このような型の逆ダケは人為的に、作りだすことは可能であり、実験的に作出した例もある。若竹のころ稗の上部を折曲げて、稗の上部を逆さにして固定し、枝が固まった段階で切出して、逆さにした部分をもとに戻して立てると見事なキクキク型の逆ダケが出来上がるという。」一節があります。その中で逆ダケの形態として図－4を記載しています。



それらを踏まえたジオテクサービス株式会社のサイトから図-5 abc を拝借します。



図-5a;普通に枝が上に伸びた竹



図-5b;枝が横向きに伸びた竹

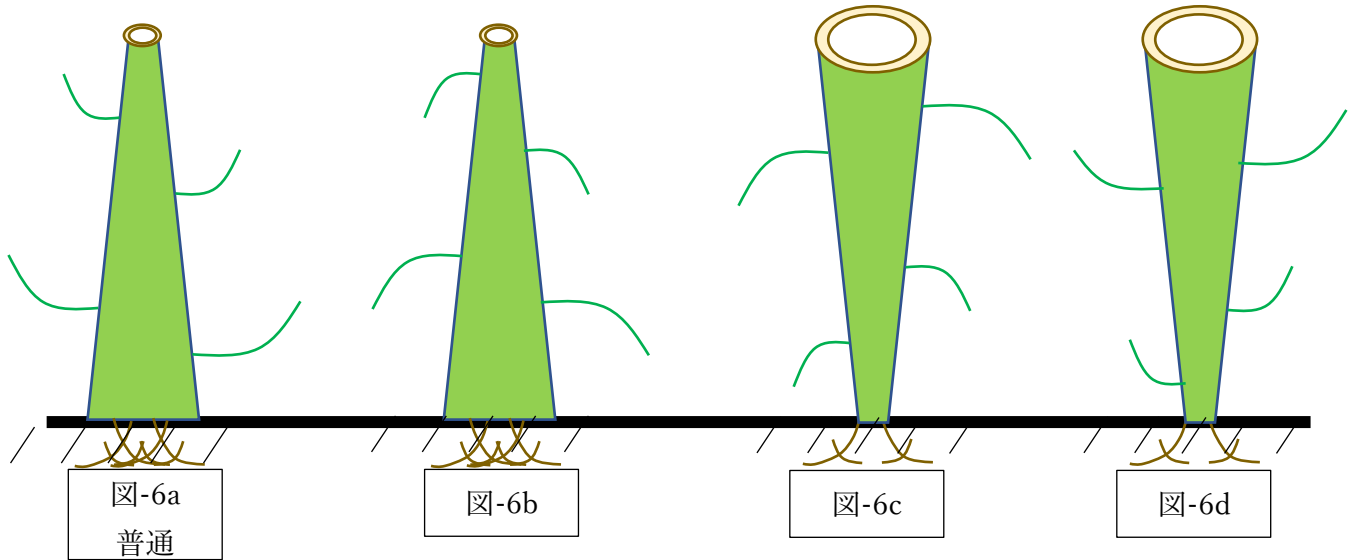


図-5c;枝が下向きに曲がった竹

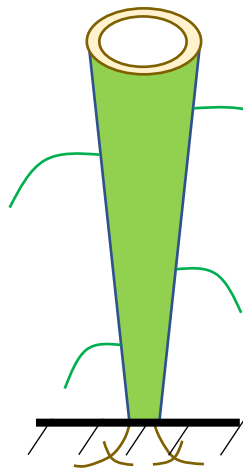
2. 真意を探る

その1； 前記□2 の物語を踏まえた私のイメージは、次頁図-6 abcd の4通りです。外野を含めて関係者は「 図-4・図-5c (=図-6b) の姿形が珍しい、これが逆さ竹だ 」と言っています。要するに「枝が下向きに曲がっている」ことが珍しい、よって、七不思議の仲間に入れたことを親鸞に先見性があった――現代人は観光資源を作ってくれて有り難い、と賞賛している訳です。それがそんなに騒ぐほど珍しいものなのか？

その2；私が「歴史上の人物に纏わる珍しいもの」というのであれば、「逆さ般若心経」について図-7のようなものをいう。また、「逆さ竹」については、幹も枝も通常とは上下反転の図-6cの姿形を言います。天佑の図-1abは横軸直線上の左右反転に留まり、「正・反・合」の『合』に到達していません。逆さ竹の図-4bは、本来一体の幹と枝を分離し2要素を有するものと捉え、枝の向きだけを問題視して縦軸直線上の上下反転に留めたものであり、同『合』に到達していません。



時・多蜜羅波若般深行薩菩在自觀
經心多蜜羅波若般訶摩



その3；そのような、「逆さ心経」にしても「逆さ竹」にしても、人為的であろうがなかろうが、人から拝観料金を徴収し、あるいは税金を使ってまで文化財だ、天然記念物だなどと騒ぐほどの物であろうか？ 出羽三山神社や新潟市教育委員会の思慮が足りない、中間管理職の判断が甘い！ 「逆さ」は、奥深い哲学的概念の「正反合」に結び付けることなくして“珍しい稀有なもの”として人から金を徴収するのであればまさに詐欺に等しいではないのか？ 騙される方も・・・、両成敗ですが。――大げさに騒ぐほどのものではないが（遊び、揶揄）――

私が思うに、特に竹に関しては、姿形は一見左右対称的です、幹と枝は一体です。よって、左右反転は人を驚かせる意味がありません、全姿形上下反転にこそ“珍しい”という意味があります。また、「竹の杖を地面に立てた」の処において地面に立て

た竹の杖の立て方が問題です。親鸞は、自然界とは反対に、つまり、幹の部分の太い方（自然体での地面に近い方）を握って、細い方（自然体での地面から離れた頭部）を地面に突き刺したものと私は想像しています。「枯れた竹から根が生じたのは」はこのように上下反転して突き刺したからこそその有り得ない現実化、新規現象なのです。

その4；親鸞の真の意図は基本形（図-4a）を上下反転させた図-4cの姿形に対して仏教に繋がるものを込めた、あるいは、親鸞は仏教に繋がる意図を込めた図-4c図柄の実践を通して説いたということではなかったのか。親鸞が「逆さ竹」のみならず七不思議の珍種に込めた意図は、単なる物見遊山の興味半分の面白さの誇張ではなかったはずです。逆さ竹について言えば、私が思うに、あえて「逆さ」を強調

したことは、心の問題として、
 偏ったものへの執着を戒めた、
 煩悩からの覚醒を刺激した、
 常識拘泥からの転換を促した、

つまり、「空即是色 色即是空」の真髓を説いたもの、だと考えています。「逆さ般若心経」にしても天祐の「逆さ」に込めた意図は共通しているはずです。よって魔除けの解釈は外れとは言わないが枝葉末節のことです。要するにそれら二つには、「**前**空即是色 色即是空 **後**受想行識 亦復如是」の教えを読み取れ！という意図を込めたものでしょう。**後**半は――喜怒哀楽を感じる感覚作用、外部刺激を受け入れ

て想像する作用、「心・言・行」の生活行為、分別し認識する知識作用も、また前半と同様であるという意味です。

3. その他「珍しいもの」

図－8は面白いが、世の中には、自然、人工を問わず、珍現象、奇怪・怪奇な現象、不思議な現象、超常現象は無数にあるでしょう。インターネットにも沢山載っています。新聞にも時々掲載されます。「逆さ杉」とか「ねじれ杉」はあちらこちらにあるでしょう。



私は若い頃から山登りを行って来たが、植物（幹・枝）は、植生の基本は重力に逆らい太陽に向かって伸びて行くが、雪深い所では樹木の枝は下方を向いている――変形種は頻繁に見られます。天佑や親鸞が胡散臭いというのではありません。今世の人がそれら程度に税金を投入したり、観光資源として利用するには浅薄ではないのかと言いたい。自然界のものはともかく、歴史上の高僧や先哲・古賢の言葉は奥深いものがあり、よくよく考え抜いて深奥の真理を追究して利活用を図るべきです。

(end)